

目次

- 1 はじめのうた
- 2 季節のカード (行事編)
- 3 俳句 与謝蕪村 松尾芭蕉 与謝蕪村
- 4 あそびうた 9ますビンゴ
- 5 早口ことば 「ポチャン ポチャン ドボン ザブン」
- 6 かぞえうた 1頭 1挺 1基 (ライオン、かな、鳥居)
- 7 今月の詩 五十音 北原白秋
- 8 たし算 1の段
- 9 ことわざ 一を聞いて十を知る 一日千秋の思い
一難去ってまた一難 一か八か
- 10 かけ算 2の段
- 11 なぞなぞ
- 12 手あそびうた むすんでひらいて
- 13 今月のうた 五十音順都道府県
- 14 四字熟語 以心伝心 危機一髪 半信半疑
- 15 おはなし 桃太郎
- 16 童謡 春の小川
- 17 イメージトレーニング 森のお友だち (第1話 はじまり)
(イメージしてみましょう)
- 18 漢詩 江南の春
- 19 百人一首 壬生忠見 中納言兼輔 坂上是則 右大将道綱母
- 20 復習コーナー
- 21 暗示 (静かなところで目を閉じて聞きましょう)

俳句

な はな
菜の花や つき ひがし
月は東に ひ にし
日は西に

よ さ ぶ ぞん
与謝蕪村



はるさめ
春雨や はち す
蜂の巣つたう や ね
屋根のもり

まつお ばしろう
松尾芭蕉



つばきお
椿落ちて き の う の 雨 を こぼしけり

よ さ ぶ ぞん
与謝蕪村



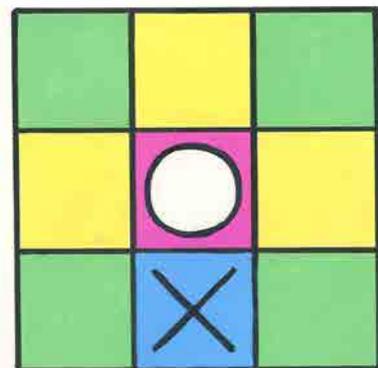
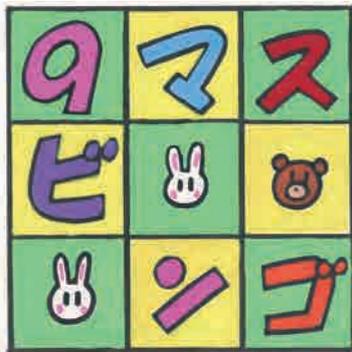
《9マスビンゴ》

まんなか○で したは×

×のひだりに ○をかく

まんなかの○の みぎうえに

○をかいたら ななめのビンゴが できあがり



今月の詩

ご じゅう おん 五十音

きたはらはくしゅう
北原白秋

あめんぼあか
水馬赤いな、ア、イ、ウ、エ、オ。
うききもこえび
浮藻に小蝦もおよいでいる。

かき き くり き
柿の木、栗の木、カ、キ、ク、ケ、コ。
きつ つか
啄木鳥こつこつ、枯れけやき。

さ き げ す
大角豆に酸をかけ、サ、シ、ス、セ、ソ。
うおあさせ
その魚浅瀬で刺しました。

た
立ちましょ、喇叭で、タ、チ、ツ、テ、ト。
と
トテトテタッタと飛び立った。

なめくじ
蛞蝓のろのろ、ナ、ニ、ヌ、ネ、ノ。
なんど
納戸にぬめって、なにねばる。

はと
鳩ぽっぽ、ほろほろ、ハ、ヒ、フ、ヘ、ホ。
ひなた
日向のお部屋にや笛を吹く。

まいまい ね じ まき
蝸牛、螺旋巻、マ、ミ、ム、メ、モ。
うめ
梅の実落ちても見もしまい。

やき くり
焼栗、ゆで栗、ヤ、イ、ユ、エ、ヨ。
やま だ ひ
山田に灯のつく宵の家。

らいちよう さむ
雷鳥は寒かる、ラ、リ、ル、レ、ロ。
れんげ
蓮花が咲いたら、瑠璃の鳥。

わい、わい、わっしよい。ワ、ヰ、ウ、エ、ヲ。
うえ き や い ど が まつり
植木屋、井戸換え、お祭だ。



いち き じゅう し
一を聞いて十を知る

ひじょう かしこ いち ぶぶん き ほか り かい
非常に賢く、一部分を聞いて他のすべてを理解する
ということ。



いちじつ せんしゅう おも
一日千秋の思い

いち にち せん ねん ひじょう なが おも
一日が千年のように非常に長く思われるほど、とて
も待ち遠しいこと。



いちなん さ いちなん
一難去ってまた一難

ひと さいなん さ おも ま
一つの災難が去ってやれやれと思う間もなく、また
次の災難が起きること。



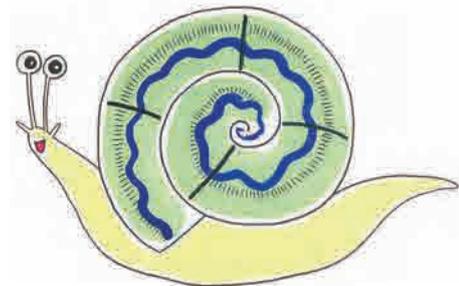
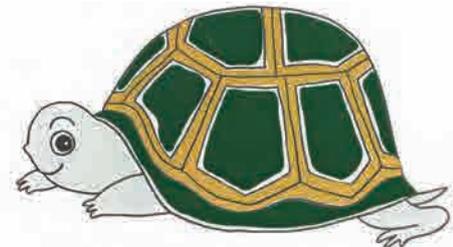
いち ばち
一か八か

けっ か おも き
結果がどうなるかわからないが、思い切ってやってみること。



なぞなぞ

- 1 目の^めまわ^{まわ}りが黒^{くろ}くて、竹^{たけ}やささ^{さい}が大好き^{だいす}な動物^{どうぶつ}なあに？
- 2 こうら^{なか}の中に、首^{くび}や足^{あし}をしまえる^{どうぶつ}動物^{どうぶつ}なあに？
- 3 頭^{あたま}の上^{うへ}に、木^きの枝^{えだ}のよう^{どうぶつ}なつ^{どうぶつ}のを^{どうぶつ}つけている^{どうぶつ}動物^{どうぶつ}なあに？
- 4 せ^{うち}なかに、いつもお家^{うち}をせ^{ある}おって^{どうぶつ}歩^{どうぶつ}いている^{どうぶつ}動物^{どうぶつ}なあに？



《むすんでひらいて》

① むすんで



手をグーにする

② ひらいて



手をパーにする

③ 手をうって



パチパチ

④ むすんで



⑤ また ひらいて



⑥ 手をうって



⑦ その手をうえに



ばんざいする

⑧ むすんで……
…… その手をうえに

⑨ おひさま きらきら
おひさま きらきら
おひさま きらきら

⑩ 手はおひざ

①～⑦をもう1かい
くりかえす



手でキラキラする



手をひざにおく

いしんでんしん
以心伝心

ことばを用いなくても気持ちが通じ合うこと。



きき いっぱつ
危機一髪

非常にあぶない状況。髪の毛一本のところまで危険がせまっていること。

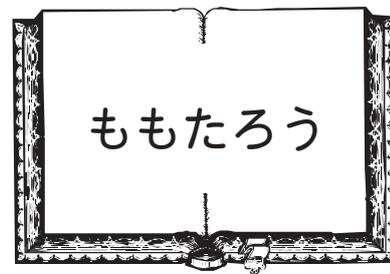


はんしんはんぎ
半信半疑

うそか本当か、まよっていること。

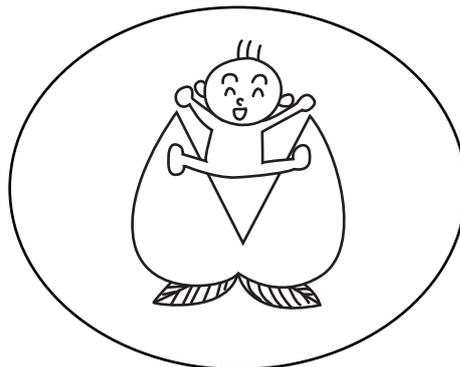
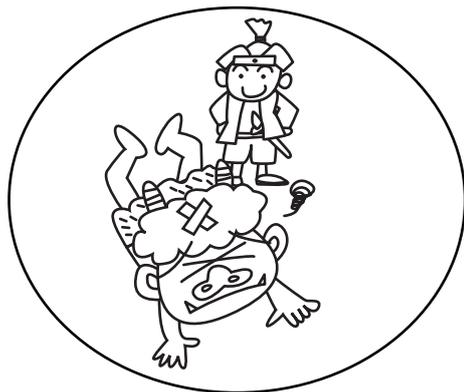


おはなし



「^{もも た ろ う}桃太郎」は、^{もも た ろ う}桃太郎が^{どうぶつ}動物たちを^つ連れて^{おに たい じ}鬼退治に^い行くお話を^{はなし}聞^{はなし}いた^き後^{あと}で、^{しつもん}質問に^{こたえ}こたえて^{みま}みましょう。

- 1 どうして^{もも た ろ う}桃太郎という^{なまえ}名前になったのですか。
- 2 ^{おに たい じ}鬼退治に行く^{もも た ろ う}桃太郎に、^{おじい}おじいさんは^{なに}何を、^{おばあ}おばあさんは^{なに}何を^{よう}用意してあげましたか。
- 3 ^{け らい}家来になった²2匹と¹1羽はだれですか。^{け らい}家来になった^{じゆん}順に^{こたえ}答えなさい。
- 4 ^{もも た ろ う}桃太郎が^{おに}鬼が^{しま}島についたときは、^{おに}鬼たちは^{なに}何を^{して}していましたか。
- 5 ^{おに}鬼たちは、^{さいご}最後には^{どう}どうなりましたか。



江南の春

杜牧

千里

鶯啼いて

緑紅に映ず

水村

山郭

酒旗の風

南朝

四百八十寺

多少の楼台
烟雨の中



恋すてふ

わが名はまだき
人知れずこそ
立ちにけり
思ひ初めしか

(壬生忠見)

みかの原

わきて流るる
いつ見きとてか
恋しかるらむ

(中納言兼輔)

朝ぼらけ

有明の月と
吉野の里に
降れる白雪

(坂上是則)

嘆きつつ

ひとり寝る夜の
明くる間は
いかに久しき
ものとかは知る

(右大将道綱母)



壬生忠見